

令和 6 年度 県立石岡商業高等学校自己評価表

目指す 学校像	地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力を育むとともに、社会に有為な調和のとれた人間力の育成に努める。				
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標		達成状況
学習指導では、3観点による学習評価により、生徒の学習の成果を的確に捉え、授業改善に生かすことに取り組んだ。その結果、生徒による授業評価では、7項目（4点満点）すべてで、平均が3.5以上の評価になるなど一定の成果をあげた。資格取得では、全商検定1級4種目以上合格、日商簿記検定2級合格と健闘したが、上位資格取得率の向上が望まれる。 進路指導では、高校生向け求人票管理システム「Handy進路指導室」の利用により求人票の整理やデータ入力が軽減され、生徒と向き合う指導時間が大幅に増えた。昨年度も進学・就職ともに学校斡旋希望者合格100%を達成した。進学は、ほとんどが指定校推薦であり、一般入試対策が必要である。就職では、面接試験での対話力が求められており、表現力、コミュニケーション能力の育成が急務である。 生徒指導では、服装・頭髮・登校指導を定例で行い、基本的生活習慣の確立に努めた。ここ数年、多様な悩みを抱える生徒が増えていることや、いじめや問題行動等の未然防止と早期発見のためにも、組織的に支援する体制の強化が求められる。 部活動では、簿記珠算部の全国大会出場、弓道部、空手道部の関東大会出場等、各部ともに熱心に活動した。野球部は、単独チームとして復活し、秋季大会では地区予選を勝ち抜き、20年ぶりに県大会に出場した。学校行事においては、クラスマッチや桐商祭等で生徒が主体的に取り組む姿が見られた。 地域交流活動では、市主催のイベント等に積極的に参加した。やさと観光果樹組合と連携は2年目となり、いちごや柿などの特産物をSNSで発信したり、柿のPRで県庁に表敬訪問するなど積極的に活動した。継続的に実施してきた商業科による中学生への出前授業（簿記、電卓、マーケティング）も6年が過ぎ、依頼数も増えた。学校ホームページをリニューアルし、情報の発信を積極的に行うとともに、安全で安心な教育活動を推進した。勤務時間を意識した働き方の浸透にも取り組んだが、時間外在校等時間の月平均時間と月平均45時間超過者の割合が県平均を上回っており、課題となっている。		1 授業の工夫・改善を図り、主体的に学習に取り組む態度と確かな学力を育む	①学習指導のRPDCAサイクルを確立し、学習意欲と基礎学力の向上を図る。 ②生徒による授業アンケートの授業満足度平均値3.5超過を実現する。 ③資格取得を通して実践的な学力を養成し、希望進路を実現する。 ④学習場面に応じたICT活用を推進する。		
		2 規範意識を醸成し、基本的生活習慣を確立する	①様々な活動を通して、規範意識・社会性・思いやりの心を育てる。 ②面談や教育相談を活用し、生徒理解を深め、信頼関係を構築する。		
		3 組織的・系統的なキャリア教育を推進する	①キャリア教育を推進し、進路意識の高揚と目標実現のための実践力を育成する。 ②実習などの体験な学習を通して、協力・協働していく力を育成する。		
		4 特別活動の充実を図り、豊かな心を育む	①特別活動を通して、心の居場所となる学級・学校づくりを推進する。 ②生徒会活動、部活動を活性化し、リーダーとなる人材を育成する。		
		5 地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する	①中学校や地域との連携・交流活動を推進し、相互理解と協力関係の醸成に努める。 ②学校通信、ホームページ、学校公開などを通して、積極的に情報を発信する。		
		6 安全で安心な教育環境作りを目指すとともに、教職員の働き方改革を推進する。	①生徒・職員の健康と安心安全に資する教育環境作りを図る。 ②勤怠管理支援システムを活用して、自らの働き方を見直し改善する。		
三つの方針		具体的目標		評価	次年度への主な課題
「三つの方針ポリシー」	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	①地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力の育成 ②社会に有為な調和のとれた人間力の育成			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	①商業高校ならではの、役立つ技術・確かな資格を生かした進路希望の実現 ②企業人に必須のビジネスマナー・規範意識に基づくコミュニケーション能力の育成			
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	①高校から新しく学ぶ商業に興味関心を持って意欲的に学ぶ生徒 ②資格取得、学校行事や部活動及びボランティア活動に積極的に取り組む生徒			
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策		評価	次年度への主な課題
教科指導	学習意欲と基礎学力の向上を図る。	教科ごとに学習におけるRPDCAサイクルを確立し、確かな学力の定着を図る。			
		知識・技術等の定着を助けるAIドリル等を活用する。			
		ICT機器を活用した個別最適な学びと主体的・対話的な学習機会の充実により、授業満足度を向上させる。			
		職業資格等の資格取得奨励を通じた学習意欲の向上を図る。			
		学習の基盤としての言語活動の充実を図る。			
特別活動	キャリア教育の充実	科目の特性に応じた語彙の習得を図り、情報を的確に理解し効果的に表現していく機会を設ける。			
		地域や企業と連携した学習活動や体験活動を積極的に取り入れていく。			
		部活動の活性化と生徒会活動の充実を図る。			
		部活動の加入率を上げるとともに、生徒会活動を活性化する。			
		感染予防に配慮して、文化的・体育的学校の行事の充実を図る。			
特別活動	キャリアパスポートの充実をはかる。	感染症予防の工夫や配慮をしながら文化祭・クラスマッチ等を実施し、感性を育て、クラスの連帯意識を培う。			
		定期的に自己の生き方や進路に対する見通しと振り返りを行うことで、新たな学習や生活への意欲につなげる。			
		生徒の自発的活動の促進を図る。			
		生徒会活動及びホームルーム運営等で、生徒の自発的活動の促進を図り、適切な指導、援助を行う。			

生徒指導	基本的生活習慣の確立	気持ちの良い挨拶や礼儀をふまえた言動ができるよう指導する。			
		頭髪や服装について、生徒の人格・立場を認めた上で、粘り強く指導する。			
		遅刻調査により定期的に状況を把握するとともに、家庭と連携しながら遅刻の減少に努める。			
		体罰によらない指導を徹底する。			
	交通安全指導の徹底	交通ルールや交通マナー、交通関係の校則についての周知と理解を促進し、交通事故の未然防止に努める。			
	いじめ・非行の未然防止	いじめ防止基本方針の周知と理解を促進し、いじめの未然防止に努める。			
		日頃から生徒の様子をよく観察し、いじめや非行の兆しを見逃さないようにする。			
		問題行動が発生した場合は、保護者との連絡を密にしながら、事態の解決を図る。			
		アルバイトをする際は、必ず所定の手続きをするよう指導する。			
	教員間・関係機関との連携	担任が一人で問題を抱え込むのではなく、学年・生徒指導部等が連携して対応する。			
		必要に応じて、ＳＣ・ＳＳＷ・県教育研修センター・外部関係機関等との連携を図る。			
進路指導	能力・適正に合った進路を決定させる。	組織的・系統的なキャリア教育を実践し、進路意識を高める。			
		進路講話、ガイダンス等の開催、または進路情報の提供等を通して進路に対する考え方や態度を早期から養う。			
	上級学校への進学を推進する。	基礎学力の向上を図るとともに志望校に応じた指導を行い、合格に結びつける。			
		資格を生かした進学についての情報提供に努める。			
教 務	授業時間を確保する。	行事の実施日が特定曜日に偏らないように年間計画を立てる。			
		出張、年休時の授業交換を確実に行い、授業時間の確保に努める。			
	充実した教育課程を編成する。	基礎科目に重点を置き、社会の変化と生徒の多様な進路に対応できる教育課程の編成に努める。			
		選択科目説明会を実施することで、生徒の希望に合った科目選択をサポートする。			
		地域の人的・物的資源を積極的に取り入れ、家庭・地域との連携・協働を目指す。			
	広報活動の充実を図る。	本校教育活動の紹介を、ホームページや広報紙等を利用し情報の提供に努める。			
		開かれた学校づくりを推進し、生徒、保護者、地域の声を真摯に受け止め、学校運営に生かす。			
		緊急時における家庭への連絡を、ホームページや緊急情報メール等で迅速に対応する。			
	魅力ある教育環境づくりの推進。	1人1台端末とクラウドを活用した新たな学びを推進する。			
		ＩＣＴ活用・情報セキュリティに関する研修・報告の実施、消耗品等の管理を行う。			
		業務等の効率化を図るため、校務のＩＣＴ化を推進し、働き方についての意識改革を進める。			
	図書委員会活動の活性化に努める。	図書委員会を適宜に開催する。			
保健厚生	心身ともに健康でたくましく生きることができる人間の育成をめざし、健康の保持増進に努める。	心身の健康状態の把握に努め、生徒が自主的に自分の健康を保持増進できるよう適切な指導・援助を行う。			
		学年・担任との連携を図り、積極的に健康相談を実施する。			
		教育相談をカウンセラーと協力しながら充実させる。			
	地域と連携した、防火防災に対する心構えを身につける。	早い時期に避難経路を理解させる。地域と連携した実践が出来るようにする。			
	衛生環境を整え、感染症対策に努める。	ハンドソープやアルコール消毒機の設置などを継続し、学校生活における保健体制を維持・継続する。 全生徒に手洗い・うがいを引き続き励行させる。			
渉 外	ＰＴＡ、後援会、同窓会との連絡を密にする。	各種行事への出席者を増やす方法・内容を充実させる。			
		ＰＴＡ・後援会・同窓会との親睦を図るとともに、効率的な運用を目指す。			
	ＰＴＡ活動の活性化を図る。	総会・理事会・生徒指導委員会・広報研修委員会の見直しを図る。			

第 1 学年	基本的生活習慣の育成に努める。	高校生活が無事スタートできるよう、入学後オリエンテーションを実施する。			
		生徒の個人面談を年 3 回程度実施し、生徒理解に努めるとともに必要に応じて関係機関と協力し、健全な高校生活が送れるように支援する。			
		登校指導や H R において挨拶の励行や、正しい言葉遣いやきちんとした制服着用の徹底を図る。			
	将来を考える態度を養い、早期の進路決定を促す。	頭髪・服装指導を徹底して行い、身だしなみを整えさせる。			
		進路ガイダンスを実施し、進路に関する意識の高揚を図る。			
		H R や個人面談を通じて自分の将来を考えさせるとともに、その実現に向けて、部活動の参加や資格取得への取り組みを促すなど学校生活の充実を図る。			
	学習指導の充実を図る。	教科担任と連携し、授業態度など生徒の実態把握に努める。			
	豊かな人間関係心を育む。	I C T 教材による基礎学力の更なる向上に努める。			
学校行事を通じて規範意識・社会性の育成に努める。					
L H R などを通じて、思いやりの心の育成に努める。					
第 2 学年	規律ある生活態度を身につけさせる。	登校指導や H R において挨拶の励行や、正しい言葉遣いの徹底を図る。			
		集会や遅刻指導等で、時間を守る習慣を身に付けさせる。			
		服装・頭髪をきちんとさせる。			
		清掃を徹底し、生活環境の美化に努め、感染症予防に努める。			
	進路実現に向けての目標を明確にさせる。	進路ガイダンス・インターンシップ等の様々な機会を通して、進路に対する意識の高揚を図る。			
		H R や個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。			
		進路希望の実現に向けて、上級資格取得の推進を図る。			
	学習指導の充実を図る。	教科担任と連携しながら、授業を大切にし、真剣に取り組む姿勢を育てる。			
		朝の学習やスタディサブリなどの I C T を活用し、基礎学力の向上に努める。			
	自他を大切にし、豊かな心を育てる。	検定試験に向けての課外授業等に積極的に参加させ、上級資格取得を目指す。			
L H R や修学旅行等を通して、他人を思いやる心の育成に努める。					
清掃・H R 等を通じて、物を大切にする心を育てる。					
H R や集会等を通して、S N S の利用方法や社会マナー、交通ルール等を身につけさせ、豊かな心の育成に努める。					
第 3 学年	規律ある生活態度を育成する。	服装・頭髪指導の徹底を図る。			
		時間厳守・挨拶・正しい言葉遣いを奨励する。			
		清掃を徹底し、感染症の予防に努める。			
	進路指導の充実を図り、希望進路の実現を目指す。	H R や個人面談等で進路意識の高揚を図り、進路目標の早期決定及び希望進路の実現に向けて指導にあたる。			
		就職や進学試験における面接や作文、適性検査への対応を図る。			
	学習指導の充実を図る。	日々の授業や I C T 教材を活用し、基礎学力の向上を図る。			
		上級検定資格取得に向け、積極的に取り組ませる。			
	心の教育の推進を図る。	特別活動を通して、自他を大切にし、他人を思いやる豊かな心の教育に努める。			
H R や学年集会を通して、社会マナーや交通ルールを身につけさせ、その重要性を理解させる。					

